

第5回東京くらし方会議 意見交換 議事概要

- 日 時 令和5年10月13日（金曜日） 午後4時30分から午後6時17分まで
- 場 所 都庁第一本庁舎42階 大会議室
- 出席者 権丈座長、笠木委員、小室委員、斉藤委員、鈴木委員、炭谷委員、辻委員、水町委員、村田委員、森信委員

[議事要旨]

東京でくらし働く人々に関わる様々な社会の仕組みや企業の現場、家庭も含めた状況について、辻委員のプレゼンテーション、水町委員による東京の雇用就業を考える専門家会議の報告、政策の方向性（案）に対する意見、感想、委員ご自身の知見等を含め意見交換

[主な意見]

<ライフ・ワークバランスや女性活躍について>

- ・ 若い時期に社会問題に関心があっても、その後仕事や子育てで忙しくなり余裕がなくなると、「ライフ」が家庭だけとなってしまい、社会問題への関心が薄れてしまうことも考えられる。
- ・ 性自認や性的指向の多様性の問題が重要な論点として社会的に意識される中、男女平等の問題に対する議論は進まず後退し、大きなうねりとなっていない。
- ・ 女性が前向きに検診へ行くことができ、健康について気軽に相談できる場が駅などのアクセスしやすい場所にあると良い。
- ・ 国際的にみて日本男性は長時間労働が多く賃金も安く幸福度が低いと聞くが、女性の活躍は男性の生きやすさにもつながるという社会の認識が高まると良い。
- ・ 性別に関係なく活躍したいという子どもたちの希望とは別に、親や祖父母はアンコンシャスバイアスな考えをもっているという調査結果にショックを受けた。
- ・ 議員の女性比率など外国が政治分野のジェンダーギャップ指数で改善傾向にあるのはアファーマティブアクション、クオータ制の成果である。

<中小企業等の働き方改革について>

- ・ 大企業に比べ中小企業の方が労働時間が短く転勤も少ない。中小企業は働きやすい職場づくりを進めている、といったことを示してはどうか。
- ・ 中小企業が働き方改革に前向きに取り組んでいることが分かったが、業種によって差があるのではないか。
- ・ 医療・介護など人材の枯渇が見込まれる業種に絞って、都が自動化のトライアル環境を作ってはどうか。

〈若者の働き方やキャリア、情報の伝え方について〉

- ・ 若者の働き方に対する意識はジェンダーほど高まっていないように感じるが、若者の発信は国を動かす力となる。働き方に関しても発信してもらうための知恵やアイデアが必要ではないか。
- ・ 東京暮らし方会議として、女性の活躍を阻む働き方を東京から変えていきたいと発信してほしい。
- ・ 若者が社会的課題に対して非常に関心が強いということは私にとって意外で衝撃的な事実だった。
- ・ 若者が、SNSにおいて匿名で意見を述べるだけでなく、実際に顔が見える形で上の世代と一緒に考え主体的に発信することで、社会を変えていくことに期待。
- ・ SNS上では、自らの不利益となるような制度改正などについては、正確な理解をしようとせず、感情的な批判が起こることがある。SNSの発信をどのように行うかは行政にとって大変重要だ。
- ・ 報告書等を作る手法として、情報を視覚的に表現するインフォグラフィックを用いると読み手の反応が良い。
- ・ 一部の人に不利になる制度改正は、数年前から行政側で広報をしていますが、切羽詰まらないと自分事として捉えることが難しい。そうした人々への発信をどうすべきか具体的に教えてほしい。
- ・ これまでの議論、意見について、多くの都民に伝わるような資料を作ってみてはどうか。